管内の概況

RUMOI
DEVELOPMENT & CONSTRUCTION DEPARTMENT

位置・地勢・気候

当部管内は、北海道の北西部に位置し、全市町村が日本海に面している海岸線延長約200kmの地域です。北はサロベツ原野を挟んで宗谷地域、南は増毛山地を挟んで石狩地域、東は天塩山地を挟んで空知・上川両地域と接しています。気候は、対馬海流の影響で緯度の割には比較的温暖ですが、南北に長い地形のため、南部と北部の気温差が約2℃あります。夏季は風も弱く、海も穏やかな日が続きますが、冬季は、シベリアから吹き付ける北西の季節風が強い風雪をもたらします。

面積・人口

当部管内は、1市7町1村で構成されています。面積は4,019.97㎢で北海道の約5%を占めており、滋賀県の総面積(4,017.38㎢)に匹敵します。(全国都道府県市区町村別面積調)

また、管内人口は、昭和30年頃をピークに減少傾向が続いており、令和7年1月1日現在の管内総人口は41,011人となっています。(住民基本台帳)

産　業

◇農　業

農業は、南北に細長い地形で気候に差があることから、大きく3地域に区分されます。南部地域(留萌市・増毛町・小平町)では稲作を主体に畑作及び果樹、中部地域(苫前町・羽幌町・初山別村)では稲作を主体に畑作及び酪農、北部地域(遠別町・天塩町・幌延町)では、酪農を主体に稲作及び畑作など多種多様な営農が展開されています。

特に、留萌管内で生産される米は低タンパクの良食味米生産地として高い評価を得ており、道内産地が競う「ゆめぴりかコンテスト2017」において、最高金賞を受賞しました。

◇水産業

水産業は、沿岸域では、ほたて稚貝養殖、刺し網、さけ定置、たこ、うになどの漁業が行われ、また、沖合では武蔵堆などの好漁場を擁し、えび、かれい漁業などが行われています。

近年は、なまこ、にしん、ひらめ、さけ、あわび、うになどの種苗を管内各地で放流するなど、「獲る漁業」から「つくり育てる漁業」への転換が図られています。

◇商工業

商業は、管内の商店の多くが小規模な事業者であることや、管内人口の減少に加え、購買力の管外流出により、厳しい環境にあります。

工業は水産加工品などの食料品製造業が主要業種となっており、製造品出荷額では全体の約85%を占めています。(令和3年経済センサス-活動調査)

特にかずの子の製造出荷額は全国一位を誇っています。

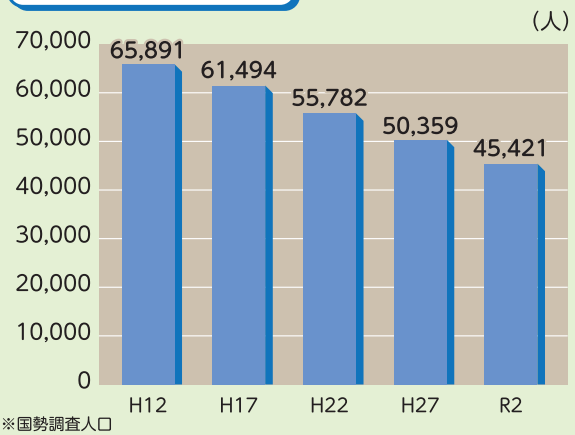
◇観　光

管内は、小樽と稚内を結ぶ「日本海オロロンライン」の中間に位置し、暑寒別天売焼尻国定公園や利尻礼文サロベツ国立公園をはじめとする雄大な自然環境を有しています。

令和6年度の観光客入込数は約195万人で、約77%が5～10月に集中しており、観光客の大部分が道内の日帰り客となっています。

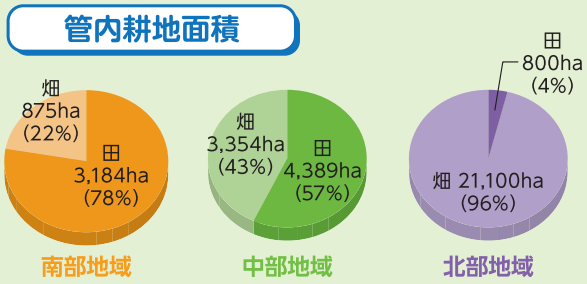
令和2年には、高規格幹線道路「深川・留萌自動車道」が全線開通するとともに、留萌インターチェンジに近接して道の駅「るもい」が新たにオープンし、観光資源や地域特産物の情報発信拠点として留萌地域の活性化に貢献しています。

管内人口の推移



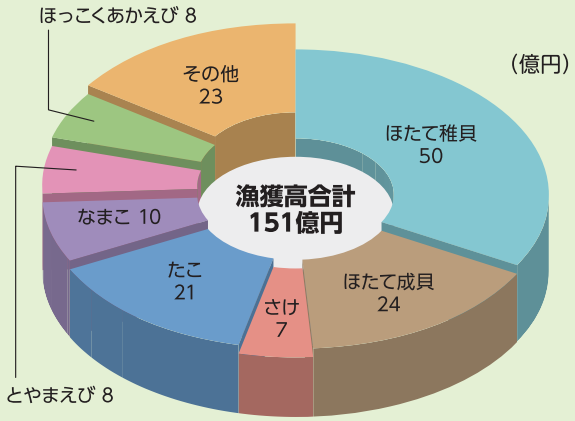
※国勢調査人口

管内耕地面積



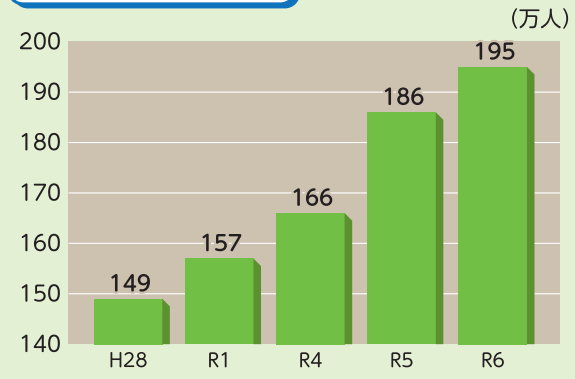
※作物統計調査 令和6年産市町村別データ(令和7年5月農林水産省)

管内魚種別生産高



※「令和5年度 留萌の水産」(留萌振興局)

管内観光入込客数



※令和6年度留萌管内観光入込客数(留萌振興局)